

示方書改訂などを学ぶ

コンクリート構造物診断技術セミナー

計者も現場を見ないと設計できない。現場に合った材料を指定する必要がある」と述べた。

福井県コンクリート診断士会（石川裕夏会長）は19日、ウェルシティ福井でコンクリート構造物の診断技術セミナーを開き、大林組技術研究所の十河茂幸副所長を講師に迎え「良いコンクリート構造物を後世に残すため」を題し講演、およそ110人が示方書の改訂などについて学んだ。

この中で十河氏は07

年版コンクリート示方書での大幅な改訂により、設計段階において耐久性・ひび割れ検討を行うなど責任体制を明確にしたと解説。設計と施工の枠割について、設計で適切なコンクリートの特性値を定め「これからは設

明確であり予測できるため設計で考慮できるとしたほか、社会インフラ維持のため、発注者も含め一体となつて考えることが必要と解説した。



約110人が受講した診断技術セミナー